

平成30年度 事務事業評価シート(実施計画事業・経常事業)

事務事業名	資源回収ステーション施設管理事業		担当部	市民生活部	担当課	ごみ政策課	担当係	収集美化係						
実施計画	3	年目												
新基本計画	市政戦略編	分野別計画編	1	安全・環境	5	ごみ対策	1	市民・事業者・行政の協働による3Rを推進します						
予算区分	一般会計	款	4	衛生費	項	2	清掃費	目	2	ごみ処理費	大	4	中	6
根拠法令・個別計画	①	②	③											
事業の概要	何(誰)を対象に	資源回収ステーション												
	目的 どの様な状態にするか	<p>○曜日に係わらず資源ごみを持ち込むことができる資源回収ステーションを開設し、良好に管理を行うことで、市民の資源ごみ排出の利便性とごみ収集経費の削減を両立できる。</p> <p>○資源の排出機会を増やすことで、ごみの減量と再資源化の促進、ごみ収集・処理経費の削減、資源売却による歳入の増加を図る。</p>												
	手段 どのような事業を実施するか	<p>○開設時間内なら持込み可能な資源回収ステーションを開設し、管理経費の抑制のためシルバー人材センターに管理委託を行う。</p> <p>(参考)「資源回収ステーション施設整備事業」</p> <p>○既存の公共施設を活用し、最小の費用で開設。</p>												
	事業内容													
28年度	<p>○第1資源回収ステーションは年始を除いた毎日、第2資源回収ステーションは土日を開設日として、シルバー人材センターに管理を委託した。</p> <p>(参考)「資源回収ステーション施設整備事業」</p> <p>○第1資源回収ステーションの老朽化した設備を補強するなどの整備を行った。</p>													
29年度	<p>○第1資源回収ステーションは年始を除いた毎日、第2資源回収ステーションは土日、12月24日からは新たに第3資源回収ステーションも年始を除いた毎日を開設日として、シルバー人材センターに管理を委託した。</p> <p>(参考)「資源回収ステーション施設整備事業」</p> <p>○旧浄化槽汚泥処理施設跡地を、第3資源回収ステーションとして有効活用する整備を行った。</p>													
30年度	<p>【資源回収ステーション施設管理事業】</p> <p>○第1資源回収ステーションと第3資源回収ステーションは年始を除いた毎日、第2資源回収ステーションは土日を開設日として、シルバー人材センターに管理を委託する。</p>													

	H28		H29		H30
	当初予算額	決算額	当初予算額	決算見込額	当初予算額
事業費					
合計	7,859	7,102	10,426	9,275	13,057
財源内訳(千円)					
国支出金					
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	7,859	7,102	10,426	9,275	13,057
特定財源の説明					
細々節	H28		H29		H30
	当初予算額	決算額	当初予算額	決算見込額	当初予算額
電気料金等	50	28	454	266	580
修繕料	200	200	900	894	300
通信運搬費	84	84	106	69	114
手数料	11	4	102	0	96
委託料	7,364	6,697	7,564	7,561	12,417
備品購入費	150	89	1,300	485	-
従事者数					
正職員(人数)	0.60		0.60		0.60
その他職員(人数)	0.20		0.20		0.20

	事業の成果指標		単位	H26	H27	H28	H29	H30
	①	資源回収ステーション利用者数		人	目標	-	-	-
			実績	65,713	75,784	79,186	89,573	
②			目標					
			実績					
事業の活動指標		単位	H26	H27	H28	H29	H30	
①	資源回収ステーション開設日数(合計)		日	目標	-	-	-	-
			実績	439	465	464	568	
②			目標					
			実績					
事業の目標達成状況とその要因、実績増減の要因								
H29 実施結果	<p>新たに第3資源回収ステーションを開設、第1・第2とあわせてシルバー人材センターに管理業務を委託した。 第1資源回収ステーションは、敷地内の白線の位置が悪く、利用者の自家用車の止める場所がわかりづらく場内の安全上支障があったため白線をひきなおしたので、より利用しやすくなった。</p>							
今後の見通し、要因を踏まえた事業の見直し								
H29 実施結果	<p>ごみ処分に要する経費削減のため、資源回収ステーションだけでなく、分別施策や収集方法の見直し、再資源化など様々な施策を複合的に実施している。剪定枝の資源としての収集等、他の事業実施にも影響が及ぶので、引き続き良好な管理に努めるための事業を継続する。</p>							

事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの
事業の評価	判定理由	<p>ごみは、収集と処分に多くの費用を要している。一口に「ごみ」といっても、きちんと分別して資源として回収すれば、収集や中間処理の経費は要するものの、有価物として売却益が出る。資源にならないごみはエコルセンターで多額の費用を要して処分するしかないが、分別が進み資源の量が増えれば、その分エコルセンターのごみ処分量は減り、処分の経費を削減できる。資源の排出利便性が高くなればより分別が進むと考えられるが、収集頻度を増やすと経費がかかる。そこで、市民が自ら都合のいい時に持ち込むことができる資源回収ステーションを開設、管理する。ごみの削減により、次期ごみ処理施設は規模縮小ができ、将来のごみ処理施設の建設費用、運転費用等の経費削減にもつながる。</p>